



Cancer Board Square 2018年7月号 (Vol.4 No.2)

特集1 がん治療に伴う“危険な”皮膚障害の診かたと考えかた／

特集2 先回り式抗がん薬副作用対策トリビア

本体 3,400 円＋税／A4 変型・200 頁／医学書院／2018

2015 年創刊のがん医療の専門誌を、最新刊から 3 冊ご紹介。職種や診療科、時に施設の壁をも越える横断的症例検討会「キャンサーボード」をその名に冠するだけに、がん治療医のみならず、“オンコ・ジェネラリスト”にも役立つ内容。

がんの治療中には「皮膚」もさまざまな表情を見せます。そのなかでも見逃してはいけない重症薬疹や皮膚障害には注意が必要です。皮膚障害を認めた時に、薬物療法は続けていいのか？ 中断すべきか？ 「臨床で注意すべき“危険な”皮膚障害の診かたと考えかた」を皮膚科専門医がレクチャーしました。



Cancer Board Square 2018年2月号 (Vol.4 No.1)

特集 マインドフルネスを医療現場に活かす

本体 3,400 円＋税／A4 変型・178 頁／医学書院／2018

診療に苦悩はつきもの。特にがん診療では、患者さん・ご家族の苦悩も深く、医療者のそれもおさらずです。しかし、医療者側が心を乱しては、質の高い診療・ケアは行えません。診断エラー対策にもなると言われ、総合診療においても時に用いられる「マインドフルネス」が、がん医療の領域でも密かなブームになっています。マインドフルネスは、現場で使える！ そう実感できる理論と実践を詰め込みました。



Cancer Board Square 2017年10月号 (Vol.3 No.3)

Feature Topic 最期の最後のがん診療／
View-point がん診療「胃がん」

本体 3,400 円＋税／A4 変型・172 頁／医学書院／2017

新規抗がん薬や臨床試験によって積み上げられたエビデンス、そして支持療法の開発は多くの患者の生存時間延長を可能にしました。また、診療現場も外来が中心となり、在宅医療も着実に広まりつつあります。本誌では「最期の最後のがん診療」と題し、外来・在宅診療中心時代の最後の関わり方を考えてみることにしました。在宅診療や終末期周辺で求められる現場的なスキルや心がまえをエキスパートが紹介します。